第３学年　社会科の実践

１　単元名　「わたしたちのまちと市」　（全３０時間　本時２０時間目）

２　単元目標

単元目標 ○身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。 ○身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。 ○身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。

３　「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題　　「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」 手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり ブロックテーマ・・・「追究する力、仲間と支え合う自分」 ・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

運動会の学年種目の作戦を話し合った際には、「背の高い人と低い人を一緒にするといいんじゃないかな？」「いや、同じような背の友だちで運んだほうがいいよ。」などの意見が出てきた。実際に二つの方法で持ってみると、「背の高い人と低い人で一緒に運ぶほうがいいね！」「次の練習はそれでやってみよう」と試行錯誤しながら前日まで作戦を考え続け、ともに高めあうことができた。

道徳の学習では、自分の考えの立場をマグネットを用いて明確にし、伝え合うことができた。話し合いでは、自分の考えと比べたり、友だちの考えを聴いたうえで自分の考えを変化・統合・強化したりすることができた。

総合的な学習の時間では、社会の時間に小田原市の地図から、果樹園の多さに驚き、「小田原の名物はうめやみかんではないか。」「いや、小田原といえばかまぼこだよ。」「だって果樹園がこんなにたくさんあるんだよ。」「三の丸小学校の周りだけでかまぼこがたくさん作られているんだよ。」「小田原市のマークは梅の花だよ。」など、地図を示しながら話し合うことができた。「どちらが小田原市の名物としてよく買われているのかを知りたい！」という思いを持った子どもたちは、次の総合の時間には「お家の人に聞いてきたよ！」と多くの子どもがインタビューをし、情報を整理した。うめやかまぼこだけでなく、おでんもあるなど、新たな発見があった。お家の人にインタビューをした結果を整理すると半分に分かれていることから、「観光客はどんなお土産を買っているのかインタビューをしたいな。」などの声がでてきている。問題を解決するために、先生や調理員さん、お家の人や地域の方にインタビューする「人ととかかわる力」が少しずつついてきているように感じる。

一方で、自分の考えや調べたことに自信がもてず、一部の児童だけで話し合いが進み、考えることを人まかせにしたり、他人事になってしまったりする子どももいる。そこで、少人数での話し合い、意図的なグループ構成、考える時間の確保、話し合いの手順を示し、全員が話し合いに参加し、自分事として課題を解決できるようにしていきたい。また、「できることからやってみるという前向きな気持ち」と「自分や仲間の気づきや疑問を共有

し、みんなでアイデアを出し合える雰囲気づくり」を大切に進めていきたい。そして、仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿をひびき合える姿としたい。

本単元は社会科であり、校外学習に行って調べた経験が共通の土台として話し合いをしたり、友だちといろいろなアイディアを出し合ったりして進められるように計画し、指導したい。

4　単元と指導

〈単元について〉

本単元は、次の学習指導要領の内容を受けている。

> 内容（1）「身近な地域や市区町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」
>
> ア　次の知識及び技能を身に付けること
>
> （ア）　身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること
>
> （イ）　観察・調査したり地図名などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
>
> イ　次の思考力、判断力、表現力等を身に付けること
>
> （ア）都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え表現すること

本単元では、市全体へと広がるため、実際に見学できないところは、調べ学習や地図や資料を活用する必要感が生じる。そのため、地図や資料の読み取り方を身につけたり、読み取ったことを複数の条件を関連付けて考えたりすることができる機会となる。そして、身近な地域や市の様子をとらえ、場所による違いを考え、表現するという資質・能力を高めることを目指して、市の各地域の様子を調べ、違いを比較することでとらえた特色を地図にまとめていく学習が有効と考え設定した。また、調べ活動を通して、小田原市のよさや魅力を発見し、地域への誇りと愛情をもつことができると考える。

〈指導について〉

わたしたちのまちについてどのぐらい知っているかを聞くと、２年生でまちたんけんの経験から、「まちのことはもう全部知ってるよ！」と自信たっぷりの子どもたちであった。地図にかいてみたり、建物やまちの特徴を話し合ったりするなかで、まだまだ自分たちの知らないことがたくさんあることに気づいた。そこで、子どもたちは「まちたんけんに行って、もっとこのまちのことを知りたい。」「地図のように上からこのまちを見たい。」という思いを持った。

まちたんけんでは、かまぼこ通りや駅前の様子、歴史的な建物にも気づくことができた。まちたんけんで気づいたことを話し合う中で「なぜ駅にお店が多いのかな？」という問題がでた。「観光客がお土産を買うためじゃない？」「小田原でしか買えないもの（名物）って何だろう」という声が出てきた。

そこで、小田原市の学習の導入として、小田原駅構内の土産屋の写真やそこで売っているもの（かまぼこや干物以外の「甘夏（根府川）」「みかん（早川）」「湘南ゴールド」「片浦レモン」「曽我の梅」「クッキー（栢山）」「あじさいちゃんキャンディ（中曽根）」などのお土産）を提示した。初めて知ったお土産も多く、気づいたことからは「片浦や根府川って小田原の外だよね」という子どももいた。全体で共有すると、「地図で確かめたい！」という思いを持ち、地図でそれぞれのお土産の産地がどこにあるのかを調べた。

小田原市を地図で見ると、子どもたちは果樹園の多さに驚いていた。保護者がかまぼこ屋で働いている子どももいて、子どもたちにとってはかまぼこの方が身近な存在だからである。地図を見て気になることを出し合

い、「どうして果樹園が多いのかな？」「どうして川や海や線路や道路の近くに工場が多いのかな？」「どうしてかまぼこが有名なのかな？」といった問題が出てきた。

そこから、山・川・海の自然に恵まれている特徴や果樹や魚などを使っているお土産を関連させ、市の地形と土地利用に気づかせていきたい。次に、小田原の歴史を伝えるものを調べることを通して、小田原宿で宿泊する人のために土産物が多くあり、今でも伝統を引き継ぎ売られていることにも気づくことができる。また、交通の様子、市にある公共施設についても関連づけて、自分たちの住む小田原市のよさを感じさせたい。小田原市の人口が毎年1000人ずつ減少していることから、「自分たちにできることはないか。」を考えることで総合的な学習の時間の活動につなげていきたい。

本時で児童が解決したい問題は、「どうして海の近くにかまぼこや干物のお店がたくさんあるのかな？」である。前時までの個人の調べ学習では、分かったことや考えたことを地図や資料（生活経験や、まちたんけんなどのこれまでの学習、わたしたちの小田原など）を根拠に話せるように、付箋にまとめておく。

本時展開の伝え合いの場面では、一部の児童で話し合いが進む学級の実態を踏まえ、次のような手立てをとっていく。

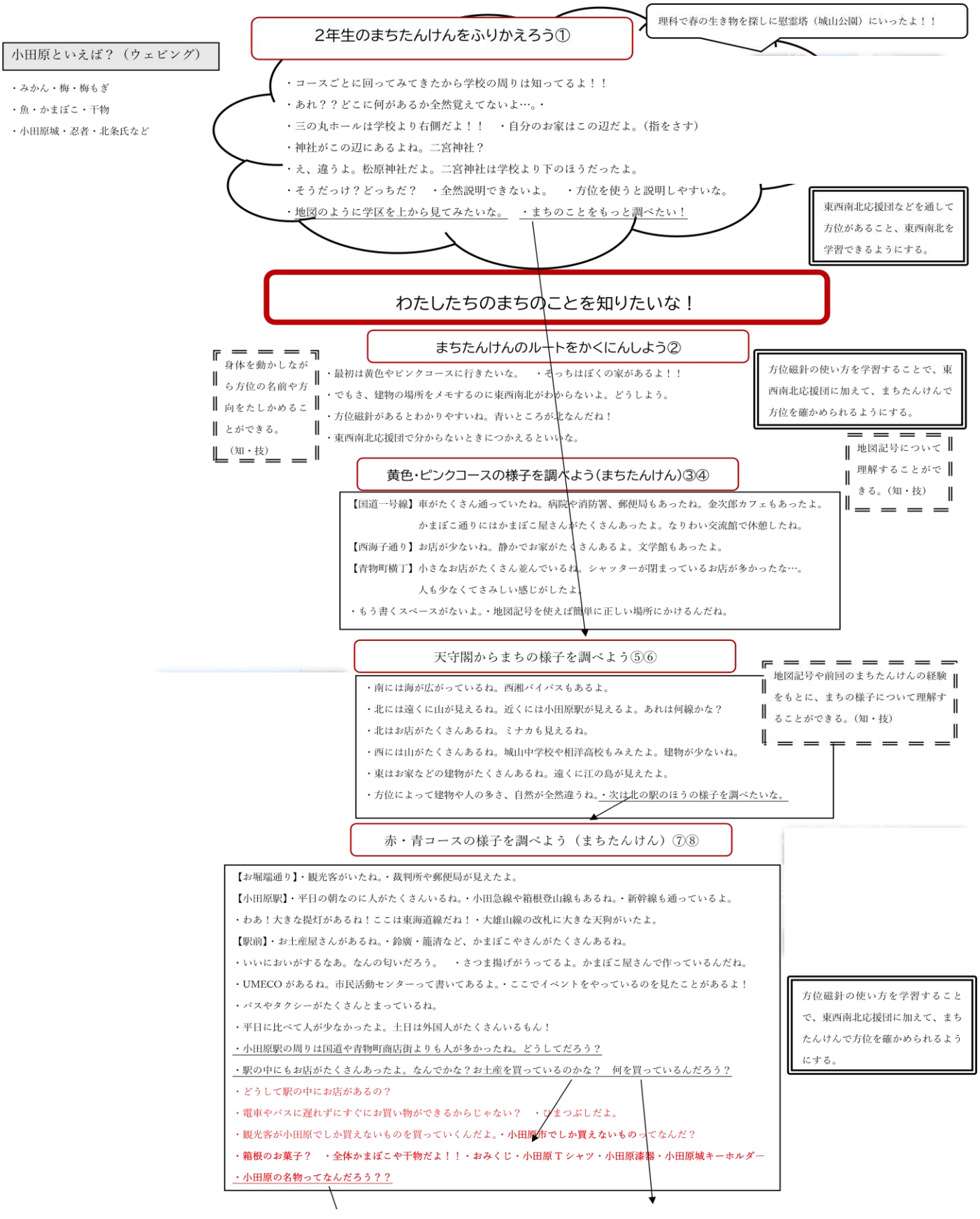
１つ目は、場の設定である。まず、付箋に書いたことをグループの全員が発表して、自分の考えを意思表示できるようにする。その際、考えの根拠も合わせて伝えることや友達の考えを聴くことで、ものの見方がより広く深くなることを実感できると考える。話し合いの中で、自然に他のグループの考えが気になる様子が見られると予想する。そこで、他のグループのところに行き、相違点を見つけ、質問をすることを通して友だちと関わり合う。他のグループをまわることで、関わりながら学ぶことの面白さに気づかせたい。最後に、グループごとに問題に対する答えをまとめる時間をとる。

２つ目は、「伝え合いのメニュー（手順)」の提示である。「伝え合いのメニュー」の中に、相違点を見つけるだけの一方通行になってしまわないように関わり合うためのアイテムとして、「○○さんが言いたいことは、こういうこと？」「○○さんはどう思うの？」「くわしく教えて。」「もう一回言って。」「つけたして言うと」「○○さんは～と考えたのかな。」などの言葉を提示しておく。関わり合いがあまりできていない場合、教師の出どころとして、関わり合いの言葉を声かけする。

本時では、仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿をひびき合いの姿とし、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。最後に、「小田原日記」を記入し、自分で見つけたことや、友だちから聞いて気づいたことなどを共有し、ブロックテーマ「仲間と支え合う自分」を高めていきたい。

５．単元構想　３年社会科「わたしたちのまちと市」全
３０時間　本時２０時間目単元目標

○身近な市の様子を大まかに理解するとともに、調査活動や地図帳などの資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけることができる。 ○身近な市の場所による違い、人々の生活との関連などを与え、考えたことを表現することができる。 ○身近な市について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情をもつことができる。



~~小田原市にはどんなお土産があるのかな？⑧~~ 小田原の名物は何だろう？？⑨

小田原駅名産店の店内

・かまぼこや干物がたくさんあるね。どうして人気なんだろう？~~かまぼこや干物に使われる魚はどこでとってどう作っているのかな？~~
・片浦レモンや湘南ゴールドを使ったケーキやジュースも人気があるみたい。・片浦レモンや湘南ゴールドってどこでとれるんだろう？
・曽我の梅を使ったお菓子も有名みたいだよ。曽我ってどこだ？　栢山ってどこだろう？
・寄木細工や小田原漆器も人気みたい。・地図をみたら場所がわかるかな？？
・曽我産がたくさんあったな。・湘南ゴールドとレモンってなんか似てるな。
・小田原のものって色々な場所で作っているんだね。
・小田原のものはやっぱり小田原で作っているんだ！
・え！小田原のなかに早川とか根府川とか曽我があるんだよ！！　**・わからないよ、早川や根府川、曽我は小田原の中なの？外なの？**
・地図をみたらすぐにわかるよ。　先生！みてもいい？

・どうして小田原の名物なのに、ちがう県で作るの？
・なんで小田原の外で作っているのに小田原で売ってるの？

児童にとって身近にあるかまぼこや干物ではなく、早川や曽我、片浦、下中などの産地が明確になっているお土産の実物を提示し、興味・関心を引き出す。

小田原市内のお土産を提示し、地名に注目が行くようにすることで、地図で調べる必要性を引き出す。

小田原市について関心をもち、学習課題を作る。（表現）

~~地図で調べてみよう~~　早川や根府川、曽我などは小田原の外？中？⑩

・小田原市ってこんなに広いんだね！！　・ワニみたいな形をしているよ。
・え！！果樹園だらけじゃん！！　・本当だ！
・曽我あったよ。周りが曽我だらけだ！　梅の里もあるよ！　だから梅のマークがたくさんあるんだね！
・下中小があったよ！近くに玉ねぎのマークがあるよ！・片浦のところはレモンのマークがあるよ！　根府川と近いんだね。
【地図をみて気になること・気づいたこと】
・外側に**果樹園がたくさんあるね。**地図を見ると高いところになんで**レモンやみかんや梅の果樹園がたくさんあるのかな？**
・小~~田原~~駅に電車や大きい道路が集ま~~っているね。~~
・線路は南から北に行ってるよ。東のほうにも通っているね。・インターチェンジがいっぱいあるよ。
・川の近くには田んぼが多いよ。
・~~どうして~~駅の周りに図書館やＵＭＥＣＯ、市役所や警察署などの公共施設が集まっているのかな？
・~~かまぼこ通りは海の近くにあるね。早川漁港もあるよね。　どこでかまぼこや干物を作っているんだろう？~~
・道路や海や川の近くに小田原アリーナの近くに工場がたくさんあるのはどうしてだろう？
・~~かまぼこのマークが~~個しかない！！！！　・かまぼこが少ないよ！　どうしてかまぼこが有名なんだろう？
・かまぼこよりも梅やみかんの方が名物なんじゃないの？？　・いやいやかまぼこだよ！！

小田原市の地図の地図記号や土地の使われ方から、気づいたことや気になることをワークシートにまとめることができる。

ノートに地図を見て、気づいたことや気になることを書く際には、「多い・少ない」「同じところ・違うところ」「～と比べて」などから、気づきの視点を示す。

小田原市の地図の地図記号や土地の使われ方から、気づいたことや気になることをノートにまとめることができる。（表現）

小田原のことをもっと知りたいな

●白地図で、小田原市の形や線路、川などのおおまかな地形をとらえる。
●問題解決のなかで考えたことを班ごとに白地図に書き込み、まとめていく。

総合的な学習の時間との関連

小田原の名物といえばかまぼこ？果樹？

どうして果樹園が多いのかな？

どうして川・~~道路・線路・~~海小田原アリーナの近くに工場があるのだろう？

どうしてかまぼこが小田原の名物なんだろう？

どうして線路や道路がいっぱいあるのだろう？

【果樹】
・果樹園は木だから何度も作れるよ。
・わたしたちの三の丸小学校がある小田原市の中心部はかまぼこが有名だけど、それ以外は果樹がたくさんあって有名なんだよ。
・小田原のマークは梅だから、名物は梅なんじゃないかな？
・キャラクターがいるよ・給食でうめまるラーメンがでるよ。

【かまぼこ】
・小田原市は魚がけっこうとれるから、すり身にしてたくさんかまぼこをつくることができている。
・工場がたくさんあるから、そこで作ってるんじゃないかな？
・まちたんけんで**かまぼこ通り**があったよ。なんでかな？
・違うまちや国に行ったことがあるけれど、かまぼこはなかったよ。

・お家の人やお店の人に聞いてみたいな。
・気になることがたくさん出てきたな。
・総合の時間も使って全部解決したい！
・一番シールが多かった果樹園の謎から解決したいな。

「みんなで話し合って解決したいな。」というところにシールを貼ることでで、興味があることを意思表示できるようにする。

どうして果樹園が多いのかな？⑪

●白地図に果樹園を書いてみよう

・あれ？　真ん中のほうはやっぱり果樹園がないね。・南西や北東にたくさんあるね。
・三の丸小学校のほうは川や田んぼがあるからか果樹園がないんだよ。
・市の外側は山になっているってこと？
・どうして小田原市の周りにに果樹園が多いのかな？

川や線路、果樹園などを白地図にかく活動を通して、果樹園が市の外側にあるということに気付くようにする。

「市の地形と土地利用」

どうして市の外側に果樹園が多いのかな？⑫⑬⑭

これまでの学習で得た知識やまちたんけんの経験、生活経験などを根拠に予想を立てることができる。（表現）

初めて、資料から読み取る活動をするため、日次を見る、付箋を貼るなどの調べ方を一緒に確認する。

【予想】

・市の外側を天守閣から見たとき、**山**に囲まれていたよね。片浦レモンや曽我の梅も山で取れるんだね。

・高いところにあると日当たりもよさそうだよね。

・山が多いから、山には栄養があるのかな？高いところにあるんだよ。

・川のところは低いから、果樹園も低いところにあるのかな？

・南西のほうは海沿いにあるね。海が関係しているのかな？

・田んぼの水は栄養たっぷりだから、その水が海に流れているんじゃないかな。

・でも川から果樹園まで、栄養が届かないんじゃないかな？

調べる活動では、市のホームページから抜粋した資料や本、「わたしたちの小田原」を提示する。
また、家の人に聞くためにはどんなことが必要かを確認する。

資料をもとにわかったことを根拠にして、分かったことや考えたことをまとめることができる。（表現）

【わかったこと】

・山に果樹園がたくさんあると思っていたけど、山じゃなくて~~やや高い斜面~~なだらかになっているところに果樹園ができているんだね。　・みかんなどの果樹は**水はけ**がよいほうが育つんだね！

・海や川で反射する光、太陽の光、石垣で反射した光が当たるからよく育つんだね。・やっぱり**日当たり**もよくなっているよ。

・夏は雨が降らないで、１０月に雨がよく降ると、おいしいみかんができるんだね。

初めて、「わかったこと」から「まとめ」を考えさせるため、まちたんけんなどの学習や生活経験を根拠に「人の生活」という視点で考えを持たせるようにする。グループで資料やわかったことを持ち寄って話し合う。

小田原市における山側の土地の使われ方について理解することができる。（知識）

・あれ？　川のほうには何があったかな？

・酒匂川の近くに田んぼや工場の地図記号がたくさんあるよ！！

・どうして酒匂川の近くに田んぼや工場があるのかな？

どうして川の近くに田んぼや工場があるのだろう？⑮⑯⑰

田んぼや工場がある地区は子どもたちの生活圏から離れているため、イメージが付きにくい。
どこに何を作る工場があるのかを写真などで提示すること

小田原市における川の近くの土地の使われ方について理解することができる。（知識）

【予想】

【田んぼ】

・田んぼには川の水がたくさん必要だから

・栄養が関係してそうだね。

・川は田んぼの栄養なんだよ。

・用水路を通っているんだよ・

・用水路から田んぼに水が流れて、出ていくんだよ。でも川からどうやって用水路にいくかがわからないよ。

・

【工場】

・川の水を使って商品を作るからかな？

・材料やできたものを運びやすい。

・お札・歯磨き粉・化粧水などを作るのに水が必要なんだよ。

・お水を飲むためかな？・トラックがよく通る。

・水力発電をするため。

・遠くから川へ水を取りに行くのは大変だから。

・川のごみと関係しているのかな？

・川で反射する太陽の光で発電しているんじゃない？

・人がいっぱい来るからみんなで管理するため。

・川は海につながっているから塩をつかうかも？

果樹園とのつながりに気付けるように声をかける。
調べる活動では、市のホームページから抜粋した資料や本、「わたしたちの小田原」

【わかったこと】

・工場での製造に水が必要・工場で使った水をきれいにして川に流すため

~~・大量の原料や出来上がった製品を大きな船で運ぶため~~。・鈴廣のかまぼこを作るのに栄養がある地下水を使っているんだね！

・~~高速道路の近くは土地を確保しやすい。短時間で製品を運ぶことができる~~。高速道路などで作ったものを運ぶため。

・川の近くは広くて**平らな場所**だから工場や田んぼが作りやすいんだね。

・かまぼこやカネボウ化粧品、ライオンの工場も、水を使うんだね！

・用水路を使って、川から田んぼに水が流れていくんだね！　・平地を使って、川の水を引いて田んぼやものを作っている。

・川のほうに鈴廣のかまぼこ工場があったけど、海のほうにもあるよね。・山から川へ問題を解決してきたね。

・自分たちの住んでいる海のほうは、どんな特徴があるのかな？まちたんけんの時にかまぼこ通りがあったよ。

・かまぼこを売っているお店が１２店舗もあるよ！　どうして海の近くにかまぼこやひもののお店がたくさんあるのかな？

総合的な学習の時間との関連

・お家の人にインタビューしてきたよ。

・かまぼこと梅、半分ずつだね。

・小田原おでんという意見もあったよ。

・お家の人や観光客の人にインタビューしに行きたいな。

・小田原城や小田原駅など人がたくさん集まる所でやりたいな。

・海外の人もいるから英語も書こう

・ほかにもどこに観光しに行ったかも聞きたいな。計画をたてよう。

・どうやって記録したらいいかな？

どうして海の近くにかまぼこや干物のお店がたくさんあるのかな？⑱⑲⑳（本時）

「かまぼこ通り」という言葉は知っているが、どこにどんなお店があるのかは把握できていない。そこで、かまぼこ通りのマップなどを提示し、ほかの地区と比べて海の近くに並んでいるということを認識させたい。

小田原市における海の近くの土地の使われ方について理解することができる。（知識）

【予想】

・魚がいっぱいとれるからだよ。・早川漁港に市場があるよ。TOTOCO で海鮮丼を食べたことがあるよ。

・まちたんけんでかまぼこ通りや駅前にかまぼこ屋さんがたくさんあったよ。・干物を干すのに海の近くがいいのかな?

・とれた魚を新鮮なうちにかまぼこにできる。・新鮮なうちに食べてほしい。

・町たんけんでかまぼこ屋がたくさんあった。・とれたばかりの魚をすぐに売りに出せる。

「わたしたちの小田原」やかまぼこやのパンフレット、かまぼこ屋に関係のある人にインタビューをするなどを活用して調べる。

【わかったこと】

・小田原の海は急に深くなっているから魚が栄養が集まりやすい。　・長持ちするから東海道を旅する人に喜ばれてきた。

・昔から東海道を旅する人たちによろこばれてきた。・海に近いほうが便利だから（山だと運ぶの大変）

・かまぼこはシログチの魚が必要（国語辞典で白身魚でかまぼこができると書いてあった。）

・相模湾で新鮮なシログチやアジがすぐ手に入るし、塩も豊富。地下水がよい。（小田原の水はミネラルをふくむ）

・電車が通る道があるから、かまぼこや干物を買える

・魚がとれるからだよ。（かまぼこや干物の原料）・干物を干すのに、海の近くがいい。

・東海道って聞いたことあるよ！　・東海道新幹線やJR東海道本線があったね！

・まちたんけんにいったときに大きな提灯があったところがJRだったね！

・東海道線以外にも小田急線や箱根登山線もあるよ！　どこに続いているんだろう？　・観光しにいっているんだよ！

・　どうして小田原には線路や道路がいっぱいあるのかな？

「交通の様子」

どうして線路や道路がいっぱいあるのだろう？㉑㉒㉓

小田原市における交通の広がりについて理解することができる。（知識）

・まちたんけんに行ったとき、大雄山線、東海道線、東海道新幹線、小田急線、箱根登山線があったよ。
・大雄山線の改札には大きな天狗が混ざってあったよ。なにか関係があるのかな？？
・おうちの人は、お仕事に行くのに東海道線をつかっているよ。・東海道新幹線で東京に行っているよ。
・ぼくのおうちの人は同じ東京だけど、車で行っているよ。
・工場で作ったものを届けにいけるからかな？
【予想】
・お仕事にいくため　・お出かけや観光につかうため。　・荷物を運ぶため
【わかったこと】
・東海道線や小田急線は、東京や横浜につながっていて、通勤に使うことが多い。
・箱根登山線は箱根に観光に行く人がたくさん来るね。
・大雄山線の先には最乗寺というお寺があるね。古くからある建物を見に来る人もいるんだね。
・京都や大阪、東京に行く人は新幹線を使っているね。
・新幹線発祥の地が鴨宮なんだね。・ロマンスカーは電車よりも早くいけるよ。

「わたしたちの小田原」や時刻表、路線図など活用して調べることで各線の行き先や利用する人に着目できるようにする。

一日の利用者数や、行先に何があるかがわかる資料を提示し、その線を利用する目的を考えられるようにする。

・線路や道路がたくさんあって、小田原はとっても便利だね！
・小田原駅は小田原市に住んでいる人だけでなく、観光客もたくさん使っているんだ！
・観光に来る人は何を見にきているのかな？　・小田原城とか歴史のある建物だよ。古くからあるものってどんなものがあるのかな？

「小田原の歴史を伝えるもの」

古くからあるものはどんなものがあるかな？㉔㉕㉖

小田原市における古くから残る建造物の分布について理解することができる。（知識）

・小田原城など有名なものがあるよ。
・図書館に歴史の本がありそうだね。
・まちたんけんで小田原文学館があったよ。
・小田原宿で宿泊する人のためのお土産が多くあり、今も残っているよ。すごいな！
（かまぼこ・ういろう・ちょうちん・梅干し）
【わかったこと】
・昔の人は車や馬車もないから歩いて江戸まで移動していたんだね。疲れちゃうよ。
・小田原は江戸に向かう人たちが途中で止まる場所だったんだね。
・かまぼこや梅干しは旅の途中で食べられるように持ち運びやすいような形になって以下の形になったんだね。
・かまぼこ通りは古いかまぼこやさんがたくさんあったよ。

「わたしたちの小田原」やまちたんけんでの経験、これまでの学習で得た知識など活用して調べる。

出てきた古くからある建造物の写真を提示することで、どこに何の建造物があるのかが共通理解しやすいようにする。

小田原城でお土産インタビューをしよう

・たくさんの観光客が来たね。
・観光に来た人にお土産を何を買うか聞いてみたよ。
・小田原城のクッキーとかを買っている人もいたよ。
・かまぼこよりも梅やみかんのお土産のほうが少なかったね。
・かまぼこ通りがあることも知らなかったよ。
・梅も名物なのに…。
・もっと小田原の歴史のある名物（うめやかまぼこ）のこと知ってほしいな。

・小田原はずっと昔からたくさんの人がくる観光地なんだね。
・なりわい交流館や UMECO に小田原市のパンフレットをみたことがあったな。UMECO でおまつりをやってて、楽しかったな。

「市にある公共施設」

小田原市にはどこに・どんな公共施設があるのかな？㉗㉘㉙

小田原市における市役所などの主な公共施設の場所と働きついて理解することができる。（知識）

・公共施設はみんなが使って、生活がしやすい施設のことだったね。
・UMECO があったよ。・駅の周りにあるね。
・ミナカの図書館もいったことがあるよ。ミナカ以外にも市立図書館もあるよ。
【わかったこと】
・市役所や警察署もあるね。警察署や消防署は小田原市に住む人を守るためにあるんだね。
・かまぼこには川東タウンセンターマロニエのように市役所のような場所もあるんだね。
・大きな道路や駅の近くに公共施設が固まっているね。
・小田原市に住む人が行きやすいように駅の近くなどにあるんだね。
・警察署や消防署、市役所などないと小田原市に住む人がないと困っていしまうものが公共施設なんだね。

市役所や警察署は子どもたちの生活圏から離れている。
そこで、調べ学習で出てきたことを共有する際には、身近でまちたんけんで通った消防署から写真などを提示し、全体で共通理解ができるようにする。

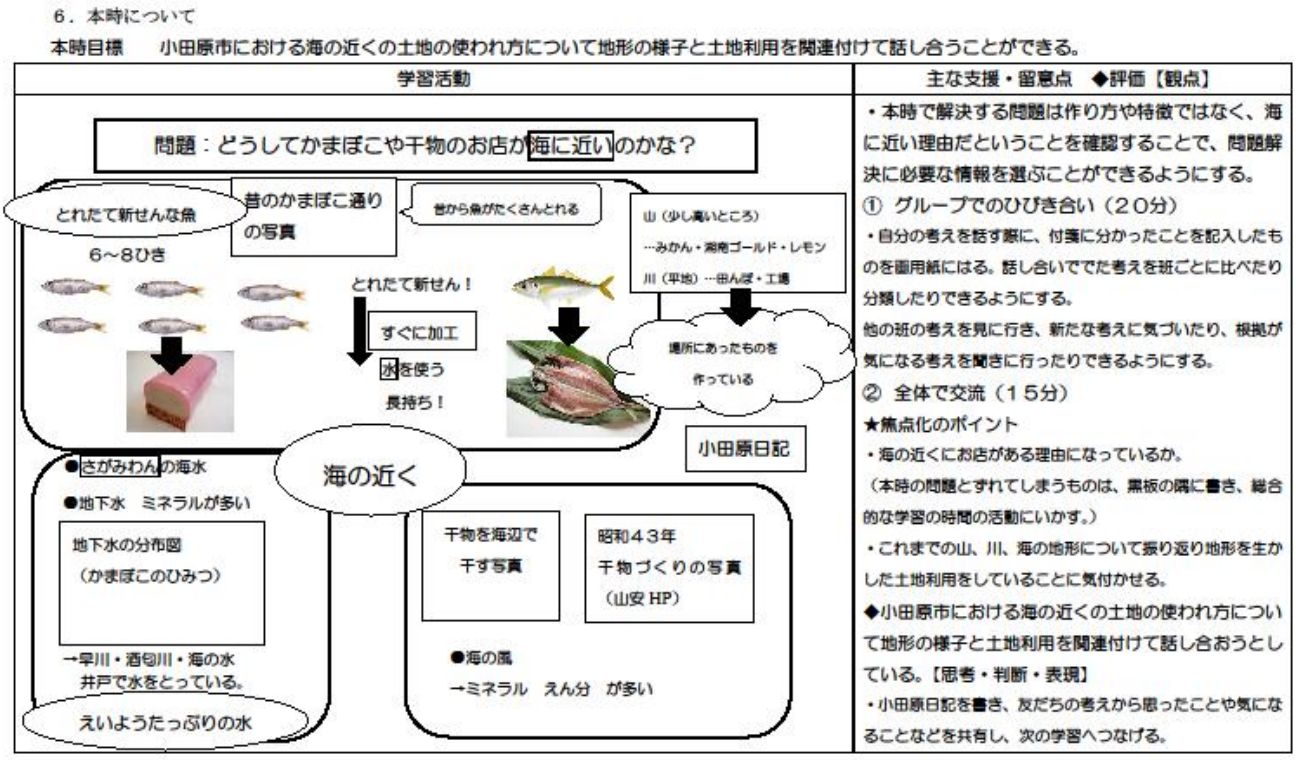
・小田原市って歴史もあって山や川や海もあり、線路や道路もたくさんあって本当に素晴らしい。
・小田原市って本当に素晴らしいな！

データ：小田原市の人口の推移（HP より）
・人口（住んでいる人）が１０００人ずつ減っている！！
なんで？？こんなにいいところなのに？　・よいところを知らないんだよ。
・もっと小田原市のことを知って住んでほしいな！！

自分たちにどんなことができるかな？㉚

・観光マップを作っておすすめのお土産や歴史など、よいところをしょうかいしたいな。
・そのためにはうめやみかん、かまぼこのことをもっと知る必要があるね。
・うめやみかんのことをもっと知りたいな。育てている人に話をききたいな。
・かまぼこを作っている人に聞きに行きたいな。

6　本時について



7　実践を終えて

〈成果と課題〉

（１）本時の様子

本時では、子どもたちが事象や課題に対して自分事と捉え、学習に取り組むことができていた。班での話し合いの際には、一人一人が調べたことや生活経験などの根拠を明らかにしながら意見を伝えることができた。前時までで調べたことに自信をもって「友だちに伝えたい」、「友だちの意見を知りたい」という想いがあふれる姿であった。

また、前時までの子どもたちの意見から、本時の問題解決における話し合いの焦点を事前に見取ることができた。本時でも、話し合いの中で出てきた意見に対して、必要に応じて教師が出ることができた。

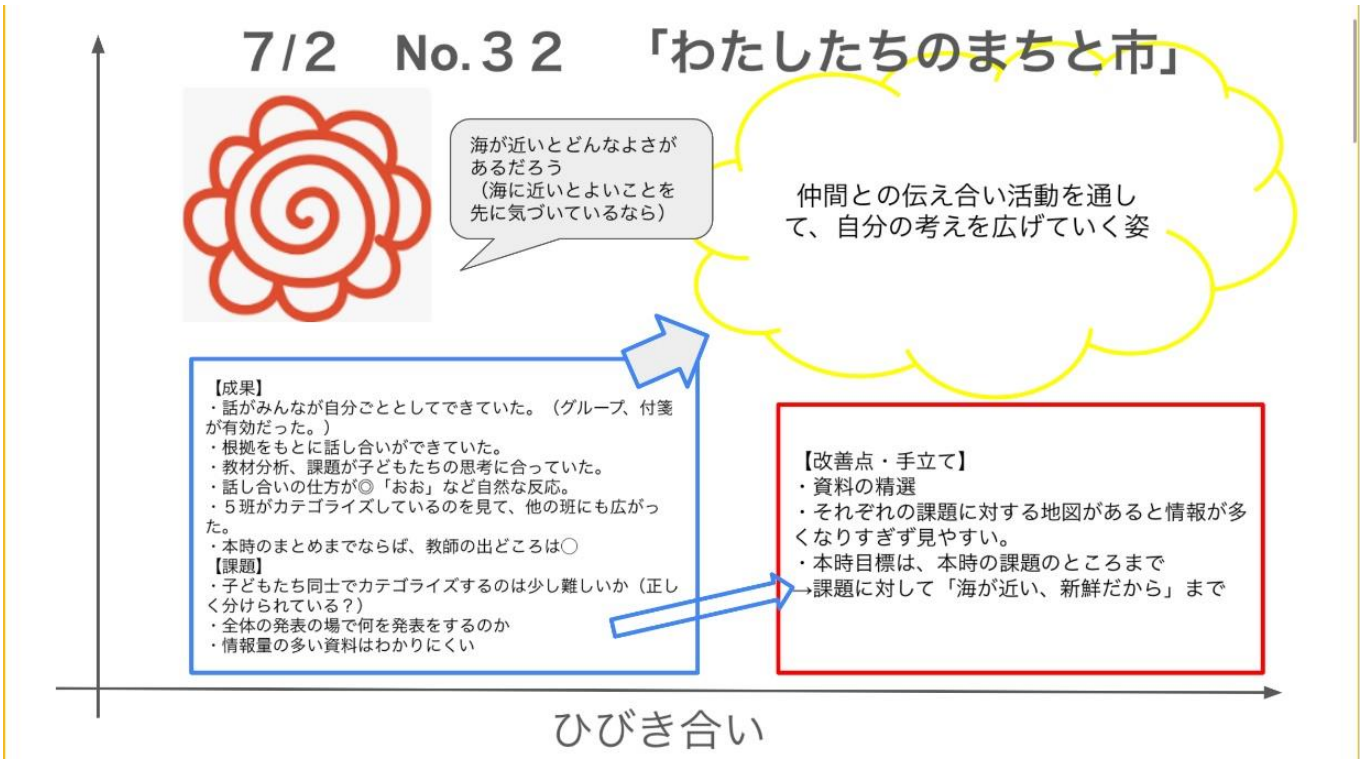
課題として、生活経験や前時までの調べ学習で多くの情報を得ることができたが、子どもたちが話し合いながら意見を分類するための指導を工夫する必要があったという点がある。予想の段階で話し合いの焦点となるキーワードが出てきていたため、班での話し合いの際の分類に活用すると、子どもたちも問題解決に向けた情報を精選しながら話し合いをすることができたと考える。

（２）授業後の実践

本時を踏まえて、次時では改めて予想で出たキーワードを活用しながら問題解決に必要な情報を整理する時間をつくった。本時よりも必要な情報がしぼられたため、本時では意見を伝えることができなかった子も生活経験や調べたことを伝えることができた。

学習の最後に「かまぼこや干物のお店が海に近いとどんなよさがあるかな？」と問い返すことで、子どもたちが調べた事実に基づいた小田原のよさにつなげることができた。

（3）ブロックテーマとの関連、教師の出どころ（重点項目）

本授業でのひびき合い「仲間との伝え合い活動を通して、自分の考えを広げ深めていく姿」については、友だちの意見を聞いて、「～さんに付け足しで」と自分の考えにつなげたり、他の班の様子を見に行って自分の考えを広げたりすることができた。班での伝え合いの場面を、グループと全体の２段階の場を設定したことで、普段は自分の意見を友だちになかなか伝えられない子も、自信をもって班や全体の場で自分の意見を話すことができた。

教師の出所については、前時までの子どもたちの意見から、本時の問題解決における話し合いの焦点を事前に見取ることができたため、本時でも話し合いの中で出てきた意見に対して、必要に応じて教師が出ることができた。今後は教師の見取りをもとに、子どもたちが問題を解決するために必要な情報や方法、問い返しの言葉などを工夫していきたい。